

## 特別講演

主催 総合医療センター 産科麻酔科（麻酔科）

後援 医学教育センター 卒後教育委員会

平成24年12月10日 於 総合医療センター 5階 小講堂

## 産褥出血の管理

Jose CA Carvalho

（カナダ トロント大学 産科麻酔科）

去る2012年12月10日に総合医療センター小講堂にて、トロント大学関連病院 Mount Sinai Hospital 産科麻酔科部長 Jose CA Carvalho 教授による、本学卒後教育委員会後援学術集会在開催された。Carvalho 教授は当科スタッフの留学中の指導者でもあり、当科が主催した第116回日本産科麻酔学会学術集会的特別講演者として来日されたのを機に今回の講演会が実現した。

講演タイトルは「産褥出血の管理」であった。内容は、産褥出血の疫学から始まり、近年各国で産褥出血が増加している統計が紹介された。次いで出血性ショックの蘇生や麻酔管理について、非侵襲的血液動態モニタリングの有用性を示唆された。さらに弛緩出血の治療に不可欠な子宮収縮薬について、ご自身の多数の基礎・臨床研究に基づいて、オキシトシン受容体が飽和することから、多剤を組み合わせる必要性を強調された。また、癒着胎盤症例の出血軽減策についても、手術と interventional radiology を組み合わせた自施設での先進的な診療を紹介された。最後は、急速大量出血に対する「大量輸血プロトコル Massive Transfusion Protocol」により輸血を迅速に開始する取り組みを示し、フィブリノゲン製剤や凝固因子補充の

重要性を強調された。

この大量輸血プロトコルは、施設により名称は異なり、たとえば Mount Sinai Hospital では Code Omega と呼んでいる。具体的には、大量出血例に遭遇したら、MTPを宣言する。すると輸血部はあらかじめ決められた血液製剤の種類と量を現場に届ける。一つのセットを発注したら、自動的に次のセットを輸血部は準備する。セットの内容は、濃厚赤血球と新鮮凍結血漿が同じ単位含まれており、血小板製剤やフィブリノゲン製剤も含んでいる。今回の講演会場には、日本産科麻酔学会に招待されたアジアオセアニア地域の麻酔科医も何人かいらしたが、オーストラリアの Gatt 教授は、MTPはこの10年の産科麻酔領域でのもっとも重要な変化だと強調され、当センターでのMTP作成をスピードアップするよう激励された。

会場には、産科医、麻酔科医、新生児科医、助産師、看護師など40名近くが来場下さり、Carvalho 教授の豊富な知識と経験に基づいた深い洞察に富む講演を拝聴し、活発な質疑応答と意見交換を行う貴重な機会となった。

（文責 照井克生）